

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100559		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名	すずらん 寿楽の家		
所在地	三重県桑名市大字稗田944番地		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町提出日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470100559-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 12 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境と家庭的な雰囲気に囲まれ、日々落ち着いた生活を送って頂いている。日常生活においては、家事など各自が役割を持つ事で自信を取り戻し、その人らしい生活が送れるよう支援している。また、屋外の散歩等を通し近隣の方との挨拶や立ち話をする機会も多くみられるようになってきており、気軽に施設を訪問し相談にみえる方も増えている。法人内の看護・介護スタッフや医療機関との連携もとれており、安心して生活して頂ける環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのグループホームとデイサービス事業が併設している事業所で、開所より11年が経過し現在地に移転して3年目である。管理者はじめ職員は6年以上の経験者が多く、また、勤務体制が常勤職員を配置し支援にあつたっているため、利用者はいつもの馴染みの職員の支援で安心して家庭的な環境で生活している。事業所の周りは田んぼに囲まれ、農道が毎日の散歩コースとなっている。四季を感じての散歩が習慣となり、健康にも良く風邪予防になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で考えた事業所理念を各フロアに利用者手作りしたものを掲げ、共有・実践している。	「その人らしく、私らしく、共に笑い、共に生きる」を理念とし、3ユニットのそれぞれの玄関に大きな字で掲示し、利用者・家族・職員、誰もが解りやすくなっている。2年前に3ユニット同一の理念に作り替え、ユニット毎に職員で話し合い共有する機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店舗への買い物・外出支援を行ったり、地域の行事等にも積極的に参加している。	自治会に加入し、自治会行事の神社掃除や防災訓練には職員が参加している。毎日の散歩の時に農作業の人と話したり、近所の庭の藤棚の花を見せてもらったりしている。相撲甚句のボランティアの訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議を通じて情報を発信・共有し地域の方が困って相談にみえた時等もわかりやすく支援させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的なサービス内容から行事等、運営推進会議の場でお話しし外部評価についても報告させてもらっており、貴重な意見をサービス向上に活かしている。	年6回、市職員・包括支援センター・自治会役員・民生委員等のメンバーで開催し、情報交換を行い運営に活かしている。地域の行事や祭りの開催などの情報をもらっている。	定期的になら6回開催し開かれた事業所を目指して努力されているが、出来れば家族の参加により理解を深めてもらえる機会にされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類の代行の機会もあり市の各関連部署にはその都度出向き連携を図っている。	介護保険の更新申請時等に市担当者と相談したりして協力関係を築いている。今年度は生活保護の利用者の入院事例について、何度も相談し協力をお願いした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを実践できるように事業所内研修を開き、日々のケアに取り組んでいる。	現在拘束をしている利用者や玄関の施錠はしていない。2ユニットは2階での生活であるが階段は見守りで、柵はないがそこへ出るドアは見守りが出来ない時は施錠している。6月に「身体拘束をしないケアについて」内部研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて高齢者虐待防止の研修を行い関係者への周知・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて権利擁護や成年後見制度の利用を検討し、実際に権利擁護・成年後見共に活用している利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすく丁寧な説明に努め、その都度わかりにくい点は訊ねてもらっている。改定時の際も説明し、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情申立先を明記してあるとともに、管理者や職員に話しやすい関係ができており、その内容によっては運営に反映させている。	面会時に意見や要望を聴くようにしたり、話せる環境づくりをしている。今年度は家族から朝食に和食を取り入れるようにとの要望があり、実施するようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見・提案を聞く機会があり、管理者が経営者に上申している。	毎日の申し送り時・昼食の時に、ユニットの計画作成担当者に意見や提案を話し合ったりして、管理者に報告し反映している。内容によっては代表者まで報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での事業所間連携はあるが、同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは日々のコミュニケーションを通じ様々な思いを早期に把握出来る様努め、意思疎通の困難な方は家族等関係者からの情報を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人だけでなく家族等の困っている事、今後の心配事など随時お聞きし共に考え支援ができるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複数の必要とされる支援内容であっても優先順位がある場合は、話し合いの上納得されるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場でもあるので、当然の事ながら出来る事・出来ない事を把握した上で、日常生活等(洗濯物干しや掃除等)ともに行い、皆で支えあう関係は築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な、家族と利用者の関わりを踏まえて良好な関係が継続できるよう、また共に利用者本人を支えていけるような対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人や家族からの聞き取り等から情報を得て、馴染みの方との連絡調整を支援したり、行きたい場所に行けるよう支援している。	友人や以前の自宅近くの人との面会があったりする。要望があると受診の時に自宅近くまで行く事もある。また、以前からの理美容院の利用を継続している利用者もあり、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の係わりについて把握し支援している。他者との関わりが苦手な利用者は無理のないように職員がコミュニケーションの橋渡しを行い、利用者同士が自然と支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退院などにより退所された後も必要に応じて、本人・家族の状態により今後のサービス利用における相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望・意向を伺えるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。困難な場合は家族に伺ったりして意向に添えるよう努めている。	利用者に寄り添い話しかけて、思いや意向の把握に心掛けている。言えない利用者も1対1になったりしてゆっくりとお話ができる環境作りをし、思いを聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人や家族からそれまでの暮らしぶりやサービス利用状況等の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りにおいて職員が情報を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に現状報告する機会を設け、家族の要望を伺いケアプランに反映している。チームでケアカンファレンスを行い現場の意見を活かし新しいケアプランに結びつけている。	3ユニットそれぞれに計画作成担当者がいるので、詳細にわたって利用者を把握している。毎月モニタリングを行い、職員全員が確認し評価もしている。家族の希望は面会時や電話で確認をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は状況が把握出来るような記入方法を指示している。気づきや特変あった場合は他職員に申し送りし情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じた買い物や外出を支援している。また定期往診の他、受診やリハビリの希望にも協力医療機関を中心に実施している。その他、外部の行事への参加等、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店への買い物や訪問理美容等、入所前と変わらぬ暮らしをより一層楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人の入所前の主治医との連携も大切にするとともに、当事業所に協力してもらっている地域の協力医に支援して頂いている。	ほとんどの利用者がかかりつけ医の往診を受けており、3か所の医院から往診がある。以前からのかかりつけ医を受診する場合は家族の同行であるが、出来ない場合は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師とも連携し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行ったり、家族や病院関係者と連絡を取り合い情報交換、受け入れ体制等連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けた当事業所の方針を説明し家族や主治医と連携を図り、理解と同意を得るようにしている。	入居時に、重度化については説明している。事業所として現在は医療行為が必要になれば入院となっており、看取りまでは出来ないとしている。今後高齢化となり、終末期にむけての方針を家族や職員と話し合い、共有していく事を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法等の講習会を事業所内で実施し、急変が起きた場合の対処方法も日々話し合いを行い緊急時対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。毎年行われる地域の大規模な合同防災訓練にも参加し、近隣との協力体制を築いている。	年2回、併設の事業所と合同で避難訓練を実施した。2階からの避難が課題となっている。夜勤専門の職員には夜間想定訓練には参加してもらっている。地域の防災訓練には職員が参加している。	いつ起きるか解らない災害に向けて、職員はその日の役割(通報・消火・避難)の確認をし、的確な避難が出来るように訓練をお願いする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を傷つけないようなプライバシーを損ねない声掛けや対応を基本としている。特に入浴・排泄時においては声掛けやケアに気を付け支援している。	入浴や排泄時の支援には、誇りやプライバシーに気をつけている。また排便の失敗などは、臭いからの支援方法に気使いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話を通じ、本人の思いや希望が聞き取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援を行う際も無理強いせず、各利用者に合わせた援助を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的な整髪や髭剃りはもちろん、定期的に訪問理美容もきている。また、馴染みの理美容でカットや毛染めされる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ、職員と協力しながらテーブル拭き、配膳・下膳、簡単な調理を行っている。	副食は業者委託であるが、温めたり刻みにしたりはしている。家族意見を反映して、朝食にパン食と和食を交互に提供するようになった。職員は見守りや食事介助にあたり、利用者が終わってから食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量が確保できるように声掛け・見守り、また介助を行っている。本人の嚥下能力等を考慮し個々にあった食事形態を提供、摂取できない食材については代替の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導により歯磨き等の口腔ケアは行われている。協力医療機関の歯科医とも連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを基に声掛け・見守りを行っている。自力排泄が困難な方については定時・随時の誘導・交換を行い排泄の失敗防止に努めている。	排泄チェック表から誘導時間をみて声かけをし、自立支援をしている。自立の利用者も数名いる。夜間もポータブルトイレの持ち込みで、自立排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握した上で毎日排便確認を行っており、便秘気味な方については主治医と連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットで基本的な曜日・時間の設定はあるが3ユニットで入浴の日時を協力し、極力個々の希望に応えられる体制をとっている。	ユニット毎で入浴日を変えて3ユニットが協力し、利用者の希望に沿った入浴が出来るように配慮している。原則週3回入浴しており、柚子湯・菖蒲湯などで楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームなので個室であり、基本的に自室と共有フロアを自由に行き来しマイペースに過ごしてもらっている。また、室温・湿度等状況に応じ調整し気持ちよく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の能力に応じ服薬支援を行っている。薬に関する事は薬剤情報により職員が把握しており、主治医と密接に連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じ日常的な家事や、買い物、外出等で気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のよい日には屋外の散歩、買い物に出掛けている。プライベートな外出についても家族と連絡調整しながら実施している。	ほとんど毎日、事業所の周りの農道を散歩している。習慣となっており、風邪予防に効果が出てきている。また、桜やコスモスの花見に、少し遠出もしている。外食には出ていないが、買い物は近くまで出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ少額の現金を個人で管理して頂く支援を行っており、買い物の際は本人渡しもしくは預かり金から支払って頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話を取り次いだりはがきを買ってきて手紙を出したりという支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアも日当たりがよく、余計なものは置かず明るい雰囲気である。施設内にいても中庭の木々や小鳥を眺め、屋外は安全な舗装された農道の散歩を日課とし季節感を感じる事ができる。	台所と居間兼食堂が対面式となっており、食事作りの音・香り・視覚を通して感じる事が出来る。また、窓からの日差しや外の景色の移り変わりがよく解る。行事写真や壁飾りがあり、居心地良くつづげる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全て個室であるが利用者同士が居室を行き来し合ったり、共有スペースで団欒したりと自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居前から使い慣れた家具を配置していただき、個人の趣味など楽しめるよう馴染みの物も自由にもってきていただいている。	ベットとエアコンが事業所の備品である。個人的には、整理タンスや机・椅子が持ち込まれたり、かわいいぬいぐるみが飾ってあったりと思いきいの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており安全が確保されている。手すりを使用し、歩行訓練等リハビリされる方もみられる。居室内も本人の希望により、家具などの配置も工夫されている。		